

2020年8月23日

ペトロの墓と信仰告白

年間第二十一主日のマタイ福音書では有名なペトロの信仰告白の場面が描かれています。十二使徒団の頭であるペトロの姿をとおして、わたしたちの教会の信仰について考えることができます。今日は少しだけローマの教会を訪れた時の経験にふれたいと思います。

約一年間イタリア中部に位置するウンブリア州・ペルージャで語学を学んだ後、わたしはカナダ人の神父たちが共同生活をしているコレジオに入れていただきました。ペルージャから列車を乗り継いで三時間ほどでしょうか。ローマに辿り着き、コレジオに到着しますと神父たちは温かく迎えてくれました（英語とフランス語で）。そして食事の時に「まだ一度もサン・ピエトロ大聖堂を見たことがない」とわたしが口にしたら「一刻も早く見てくるように」と言われ、翌朝、早速見学に出掛けました。まずそのスケールの大きさに驚き、言葉を失いました。これまで何名かの外国人宣教師との出会いもあったので、海を越えて日本を訪れる宣教師たちの困難を改めて思いましたし、わたし自身も本当に遠い所まで来たものだと感慨を深くしました。そしてローマの教会を巡る中ではじめて、わたしたちの「教会」は「お墓の上に建っている」ということを実感しました。

たとえば、サン・ピエトロ大聖堂はペトロのお墓の上に、サン・パオロ・フォーリー・レムーラ大聖堂はパウロのお墓の上に建っています。永遠の都＝ローマが4世紀頃には、すでに世界中の巡礼者が頻りに訪れる中心地となった背景に、ペトロとパウロが同じ地で殉教を遂げたという理由がよく挙げられます。死を遠ざけようとする多くの日本の文化に慣れ親しんだ自らの感覚と照らし合わせるとき、ローマの教会群は「復活の信仰」を抜きにしては到底考えられないような信仰の遺産を持っていると感じましたし、キリスト者の死と復活が大変身近な世界に広がっているように思われました。

今日のマタイ福音書の中でもペトロの信仰告白「あなたはメシア、生ける神の子です」（マタ16・16）に続き、イエスさまの応答は「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府<よみ>の力もこれに対抗できない」（マタ16・18）と宣言されています。ペトロの人物像は熱血漢で衝動的と言われま

すが、あえて表現するなら、当時のキリストの弟子の典型であり、正しくもあり間違いも犯す曖昧<あいまい>な生きた人間そのものが、ペトロに集約されていると言ってもよいでしょう。

イエスを信じてその後に従いたい、しかし艱難<かんなん>が訪れるとすぐに疑い、イエスを否定し、十字架のもとから逃げ去ってしまう。そして涙を流して回心し再びその後を追いかける。弱さと情熱を持ったキリストの弟子の典型です。キリストの完全さには程遠いこのペトロが、弟子のリーダーとなり、神の民の要<かなめ>となっていくのは神秘としか言いようがありません。

わたしたちも自分の罪や弱さに死んで復活します。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ」（マタ16・17）という主の呼びかけに応え、日々新たにされて信仰告白を続けながら「幸い」を生きるよう招かれています。

「すべてのものは、神から出て
神によって保たれ、
神に向かっているのです。」
(ロマ11・36)

カトリック立川教会 主任司祭
東京教区 ヨゼフ 門間 直輝

●年間第21主日聖書朗読箇所：

- ① イザヤの預言22・19-23
—答唱詩編—詩編138より
- ② ロマ書11・33-36
- ③ マタイ16・13-20